

2020年10月25日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

## 聖霊降臨後第21主日（特定25） 説教

### 「イエス様が教えられた2つの愛」

〔旧約聖書〕 出エジプト22:20~26

〔使徒書〕 テロニクスの信徒への手紙 I 2:1~8

〔福音書〕 マタイによる福音書 22:34~46

主の平和が皆さんと共にありますように。

ある律法の専門家がイエス様を試そうとしてわざと律法の中でどの掟が一番重要かと尋ねます。イエスの答えはひとつではなく、二つありました。「神を愛すること」「隣人を愛すること」です。

そして、これを切り離して考えてはいけないということです。しかし、これ言葉で言うのは簡単です。

さきほど、福音によって私たちの体と心が喜びに満たされたいですねと申しておきながらこんなことを言うのはなんですが、イエスの福音は、聴けば聴くほど自分の無力さが鮮明になってきます。神さまを愛することだけなら出来るかもしれません。また人を愛することだけなら出来るかもしれません。

しかし、イエスは両方が大切であり、そしてそれは切り離すことはできないと言っているのです。

「神への愛」とはどういうことでしょうか。神は人間に何かをしてもらうことを必要としているわけではありません。神は無条件に人間を愛する方です。その神の愛に気づき、感謝すること、これが神を愛することだと言えるでしょう。この神とのつながりを大切にすると、と言ってもいいかもしれません。そして、このように「神を愛する」ことは、必然的にわたしたちを「隣人を愛する」ことに向かわせるのです。あるいは、神を愛することの具体的な表れが人を愛することだと言うこともできるでしょう。

つまり私たちは徹底的に「私」と「あなた」という関わりの中で生きていくことによってイエスの愛の教えを理解できるのではないのでしょうか。

そのために必要なのは「優しさ」だと思います。私は優しい人が大好きです。

優しい人は、本当は強い人なのです。なぜなら、「あなた」のために生きるということですから。

イエス様はまさに「あなた」のために生きられた方でした。

まずは本当に身近な関係から見つめ直してみませんか。「あなた」の優しさを必要としている人がすぐ

そばにいると思います。なにを隠そう「私」たち一人一人が「あなた」からの優しさを必要としている

のです。

イエスの教えられた2つの愛を「優しさ」というはしごでつなぎ合わせていきましょう。